1．令和5年1月～3月期の景気動向

今期のDI平均値は△37．2ポイント。建設業は6ポイント上がったが、製造業は11ポイント、卸売業は1ポイント、小売業は2ポイントサービス業は19ポイント下がった。全業種平均では前期10～12月の△31．8ポイントから5．4ポイントマイナスとなった。

業種／項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		1～3月	4～6月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		△ 31 (△ 38)	△ 38 (△ 31)	△ 32 (△ 22)	△ 36 (△ 19)	△ 12 (△ 22)	2 (△ 32)	△ 39 (△ 44)	△ 43 (△ 40)	△ 16 (△ 6)	△ 33 (△ 29)
採算		△ 57 (△ 57)	△ 69 (△ 50)	△ 44 (△ 39)	△ 51 (△ 39)	△ 11 (△ 45)	△ 11 (△ 56)	△ 34 (△ 42)	△ 38 (△ 42)	△ 45 (△ 23)	△ 44 (△ 17)
資金繰り		△ 19 (△ 27)	△ 31 (△ 27)	△ 28 (△ 16)	△ 23 (△ 16)	△ 22 (△ 33)	△ 22 (△ 22)	△ 40 (△ 42)	△ 36 (△ 32)	△ 32 (0)	△ 38 (△ 13)
業況		△ 32 (△ 38)	△ 50 (△ 31)	△ 38 (△ 27)	△ 29 (△ 28)	△ 33 (△ 32)	△ 11 (△ 38)	△ 42 (△ 40)	△ 40 (△ 32)	△ 41 (△ 22)	△ 29 (△ 22)
経営上の当面する問題点	1位	材料価格の上昇		需要の停滞		仕入単価の上昇		需要の停滞		需要の停滞	
	2位	官公需要の停滞		原材料価格の上昇		需要の停滞		仕入単価の上昇		材料等仕入単価の上昇	
	3位	民間需要の停滞		製品ニーズの変化への対応		人件費以外の経費の増加		消費者ニーズの変化への対応		店舗施設の狭隘・老朽化	
業種別コメント		材料価格の上昇が続いていることで売上高は7ポイントプラスとなったが、採算の改善には結びつかなかった。資金繰りは8ポイント、業況は6ポイント改善されている。来期の見通しは官公・民間需要の停滞やコロナ融資の返済スタートなどにより、全項目でマイナスとなり、特に採算・業況で19ポイントと大幅にマイナスになっている。		売上高は需要の停滞により10ポイントマイナスとなり、原材料価格の上昇や電気料金や燃料価格の高騰により業績を圧迫していることで採算は5ポイント、資金繰りは8ポイント、業況は9ポイントマイナスとなった。来期の見通しは、電気料金や燃料価格の高騰が続くことが予想されるため、更に採算の悪化が懸念される。		売上高は需要の停滞が懸念されたが季節要因により10ポイント、採算が34ポイント、資金繰りは11ポイント改善された。来期の見通しは売上高が34ポイント、採算は45ポイント、業況は37ポイントと大幅なプラスが予想され、仕入単価や流通コスト等の価格転嫁が順調に進み、景気回復の兆しが見え始めてきた。		行動制限の緩和により人の動きも活発になり売上高が5ポイントプラス、採算も8ポイントプラスとなっているが、仕入単価の上昇や光熱費の高騰から業況は2ポイントマイナスとなった。来期の見通しは物価高の影響で消費者の購買意欲低下が危惧されることから横ばいとなっている。		季節要因による需要が停滞したことで、売上高は10ポイント、材料等の仕入単価や光熱費の高騰により採算は22ポイント、資金繰りは32ポイント、業況は19ポイントと全項目で大幅なマイナスとなった。来期の見通しは更なる物価高に加え、店舗施設の老朽化対策が経営課題となり、採算の悪化が懸念される。	



とくに好調（50≦DI）　好調（25≦DI<50）　まあまあ（0≦DI<25）　不振（△25≦DI<0）　きわめて不振（DI<△25）

※当所では分析にあたってD･I（好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値）を採用しました。

※（ ）は前回調査時のD･I値

※詳細につきましては、加茂商工会議所ホームページ(http://www.kamocci.or.jp)をご覧ください。

